



# 高円宮杯

## 県ベスト6

3年生最後の公式試合、高円宮杯。この大会は中学生年代の最高峰の大会です。部活とクラブチームの頂点を決める、大人のサッカーで言う『天皇杯』の様な大会です。結果は、宮城県ベスト6でした。内容も、そこまで至る道のりにもドラマがあり、ストーリーがありました。自分達のサッカーをやり切り、悔いはない、と書きたいところですが…、「もっとできた」という気持ちが大変です。

3年生の皆さんは今後、受験に集中することになります。ただ、クラブチームは受験のための決まった引退時期はありません。高校サッカーのために技術を磨くため、体力維持のため、受験勉強のリフレッシュのためにも、最後まで文武両道を突現します。結局、受験勉強も体力勝負です。まだまだ頑張ろう！後輩はキミ達の姿を見て育ちます。キミ達の姿がそのままアバンジュニアユースの伝統となるのだ！



### ベスト6を決めた笑顔



### 仲間と戦った日々



### 俺らは心でつながっている

# アバンがわらばん

## 第4回 ジュニアユース

2014年11月号

## 「スタンダード宮城」にアバンが紹介!

※創刊号の表紙



宮城県のアマチュアスポーツを特集する、河北スポーツマガジン「スタンダード宮城」11月1日発売。書店やコンビニエンスストア(セブンイレブンを除く)で販売されています。



前回のがわらばんでも紹介したスポーツ雑誌に、アバンの紹介が。キャプテンの嶋岡響くんへのインタビューという形で掲載されます。11月1日発売!ぜひご覧下さい!記事のタイトルは「街クラブで夢を追う!」

## 紙面の都合上、雑誌には載せられなかった記事を紹介!

僕はジュニアユース一期生でした。アバンツァーレに入って、サッカーの技術だけでなくさまざまな面で成長することができました。それはサッカーノートであったり毎日のコーチへの報告だったり多少めんどうさいと思うことをやり通せたことが一番大きいと思います。日々の積み重ねが中学生にとってはとても大切なことです。また、このチームで3年間サッカーして一生運付き合っている大切な仲間と出会うことができました。そして中学まで無名だった自分が高校サッカーで宮城県3位という成績を獲ることができたのもそのチームでキャプテンを務め10番をつけることができたのもアバンでサッカーしてきたからだと思います。今、アバンでサッカーしてる皆さんは辛いと思うこともあるだろうし他にもしたいことがたくさんある年頃だと思いますが強い意思を持ってサッカーにとりくめば頑張ってきた良かったなと思えるはず。成長できるきっかけがアバンツァーレというクラブには溢れています。なのでこのあつという間の中学3年間、サッカーに打ち込んで欲しいと思います。



1期生: 齋藤将織くん  
古城SSS→アバンジュニアユース→城南高等学校→東北学院大学1年生

## 「ジュニアユースがわらばん」前書き

とうとうこの時期がやってきました。ジュニアユース3年生の公式戦、引退の時です。本当にさみしい。この時期、彼らもそうでしょうが、試合が面白くてたまりません。なぜなら、今まで積み重ねてきたことが花開き、彼らがグンと伸びる時期だからです。そして、お互いがやるべきことが分かり、コンビネーションが冴え渡されていく…。また、ようやく彼らが「話せる」ようになるのです。受験を控え、急に大人になるのが、ずいぶん思慮深くっていきます。サッカーの話も深いところまで話せるようになり、仲間やコーチへの心配りも細やかになる。毎年この時期「後、3ヵ月あればもっとすごいサッカーができるのに」と思ってしまう。何はともあれ、3年生の皆さんお疲れ様!卒業してしまえば、コーチと選手ではなく、ともに戦った仲間、「戦友」になります。(まだ早い!)3月卒業まで、残りのアバン生活を楽しもう!

## ～サッカー、人との出会い～



左上の写真は、高校サッカーの冬の選手権予選。試合を観に来てくれとコーチにメールが…。公立高校のサッカー部は、夏の高校総体で引退する選手がほとんど。そんな中、仙台東高で、3年生で最後まで挑んでいる選手が2人。そしてそれがアバンジュニアユースOBの2名でした。嬉しかったです。更に1年生の2名のスタメンもアバンOB。これも嬉しいこと。例えば、この中の2名も、小、中学時代、辞める辞めないの苦しい時期がありました。10番の彼は、小中学時代はGK。それがチームのエースストライカー。本当にどうなるか分からない。そして、足下の技術を磨くことはホントに大切だということ。今のアバンの選手もそのことを頭に入れて欲しい。更に下の写真はアバンジュニアSCの卒業生。彼はジュニア時代、新人チームのメンバーに選ばれず、号泣。コーチは2日間連続で夜12時まで家庭訪問しました。「アバンなんて大きらいだ～」と部屋にこもった彼も、立派な男になっていました。彼もまた、チームの大黒柱でした。ほんと、あきらめず、くさらず、素直な選手が最後に輝く!

仙台東高等学校  
左から、4期生: 佐藤響くん、齋斗真くん、2期生: 尾川雄紀くん、入間川拓実くん、それぞれがチームの中心選手として活躍!



藤田安樹くんとお母さん。  
アバンSC→FCみやぎ→東北学院桐岡高等学校3年生  
本当にいい子です!



# テクニカルスクール物語

# 選手へインタビュー



**サッカー虎の穴!**

PPDSの技術指導法をまとめたハンドブックを作成したこともあり、練習やテニスボールリフティングなど、独特の練習法も。右の彼はテニスボールで200回以上は余裕でした!



現在の「テクニカルスクール」は元々『PPDSコーチングサッカースクール』という技術専門のサッカースクールでした。関東地区で発足したこのスクールは、山形、仙台、福島と展開。日々、技術の研究に明け暮れました。サッカーの技術に関しては研究し尽くした感があります。フェイントや身体の使い方、最後はストリートサッカーの要素を取り入れた「年齢、体格差の異なる選手の合同練習」にいそぎました。東北ではアビンの源唯コーチが指導にあたっていたため、最終的には「アバンテクニカルスクール」に改名。現在に至ります。PPDSは現在でも関東で活動しています!



※PPDSエンブレム

読んで欲しいサッカーコラム



テクニカル長町 小野寺直樹くん(小5)

テクニカルの中生はテクニックがすごく、それをマネすることで自分が上進できています。すごいと思う選手は、吉里くん、響くん、勇司くんです。吉里くんは上手すぎてヤバイと思います。これから中学生の中でも積極的にチャレンジして、いつかは世界で通用する、海外で活躍できる選手になりたいです。



テクニカル室内練習場 佐藤輝くん(小6)

4年生からテクニカルで練習しています。テクニカルも含め、すべてにおいて、レベルアップできたと思います。それまではパス・パスだったけど、アバンで練習することで、自分からしかけられるようになりました。中学生もたまに抜けるようにもなりました。もうアバンジュニアユースに進むことを決めています。将来はとにかく親孝行がしたい。何が親に恩返しがしたいです。

## W杯優勝国ドイツが重要視「ツバイカンフ」

サッカーはスポーツだが、闘いの側面もある。ブラジルワールドカップで繰り広げられた死闘の数々は、「ただボール扱いが上手いだけでは、勝つことができない」というサッカーの真理を教えてくれた。闘いの局面が顕著になるのが、球際の争いやドリブルでの突破など、1対1の局面だ。ドイツでは1対1をツバイカンフ(2人の戦い)と言い、重要視している。ドイツサッカーのテレビ放送の中に、両チームの選手の1対1の勝敗がデータとして表示されることがある。意外な事に、ボール支配率やシュート数などは、試合の勝ち負けにそれほど因果関係は無いと言う。唯一、局面での1対1の勝率が、試合結果と関係があるとのこと。もちろんデータなので、カウントの仕方による差異はあると思うが興味深いデータであることは間違いない。サッカーはチームスポーツ。1対1で行うので、試合の勝敗に対する責任は分け合うことができる。しかし、ゴール前で1対1の局面など、ひとつのプレーが勝敗に直結することがほとんど。1対1で勝つことを追求することは、選手個人のプレーに対する責任感を高めることにもなる。1対1で大切なのは、華麗な突破だけではない。強引に突破して、打ったシュートが相手に当たって入ることもある。相手をブロックしながら突破してシュートを打つ技術や振り合いの中で身につける体の使い方。守備の面では、リスクを冒して奪いに行く場面と、安全なプレーを覚えること。一人でボールを奪い取ることやスライディングタックルの技術など、1対1のトレーニングで学ぶ部分は多岐にわたる。ブラジルW杯の日本代表の戦いを見て、敬服的有利を作ってボールを奪うプレーだけでなく、回数や敬服的不利の状態であっても「1人でボールを奪い取る能力」の必要性を感じた人も多はず。そして、1対1の状況において「目の前の相手に勝つてやる」という強いこだわりや気持ちを持ってプレーする習慣をつけさせること。これも選手を成長させるため、重要な取り組みだ。

※サッカーサイト「サカイク」から抜粋

ジュニアユースの選手が、コーチに送ってくれる毎日の報告メール。基本的には、その日の目標を達成したかどうかの報告、明日の目標とコメントを記載し一日の終わりに送信するものです。コーチはそのコメントを楽しんでいます。ジュニアユース年代は思春期真っただ中。悩み、苦しむ時期でもあります。かわらばんでは良いところばかり紹介してきましたが、こんな出来事もありました。あえて紹介します。今の時期、たくさん悩むといいです。ただ、ふて腐るな!あきらめるな!以下の報告メールの選手は、素直な優しい子です。コーチは大好きです、かっこいい大人になると信じています。自分だけでは無い。みんな悩んでいる。初心を忘れるな!

○ 7月26日(金)

今日学校で三者面談がありました。先生には、このままでは入れる高校は間違いなく無いと言われました。言われるのはわかっていましたが、先生に言われたお母さんは、でしようね。と言ってました。家に帰ってから父さんが帰って来て。父さんから言われました。アバンで決まってる自主勉強90分やってにのに何も身になっていないこと、その90分でもたりないのにそれ以上やらない事、自主トレも時間だけこなしてレベルを上げるという目標も見えない。目標など決めてやってる様子が見えない。やっているふりをしている事、結果も出ていない事、90分机に向かっているだけで意味のない勉強で時間をつぶしてやってるつもりになっている。とされました。その後振り返られボコボコにされました。その後また話しをしました。父さんに言われました、高校に入らなければ好きなサッカーを続けに行く事が出来ないこと、サッカーを楽しむには普通の人より頑張る練習しなければいけない事、これからサッカーを楽しむためには勉強もみんなの倍以上やらなくてはならない事。出来ないなら学校はやめられないのでサッカーを辞めろと言われました。今まで何度もサッカーを辞めちまえと言われてきましたが、今回は本気で言ってます。今月で辞めさせられると思います。僕のうちは弟もですけど、小さい時から目標と夢を持たないとダメだと言われてやってきましたが、最近目標と夢がなかなか見つかりませんでした。小学校の時はリフティングを何百回出来るようにする事などたくさん有ったような気がします。今でも目標はいつも持っていますが、目標を考えてるだけで目標のために努力や行動していないように思います。小学校の時は本気でプロになりたいと思ってましたが、今日聞かれて困りました。何も思いつかず。父さんは根性が無いヤツは何にもなれないと言います。すべては好きなサッカーのために頑張れば良いだけなんだと言われました。それが出来ないならサッカーがあまり好きでは無いかやる気がない。根性が無い。と言われました。言われてる事はわかります。今まで何回も同じ事を言われて繰り返してますが、なんとか頑張ればサッカーを続けて行けるかもしれせん。夏休みで学校がないのでそのぶん本気で自主トレや勉強をやっていきたいです。

## ジュニアユース選手・テクニカル会員参加型企画!

### 11月から1対1アバン選手権をスタート!

ジュニアユース選手・テクニカルスクール会員対象の「1対1」のリーグ戦をスタート...と考えましたが、なかなか「格当たり戦」は難しい。そこで、1部・2部・3部に分かれた「1対1」のデータをとり、勝率で年間のランキングを出したいと思います。チャンピオンには豪華プレゼントも予定!



## Jrユースかわらばんのお知らせ

ジュニアユースの事に限らず、サッカーに関する疑問や悩みは遠慮なくご相談下さい。ジュニアの子であっても、今から将来を見据えた取り組みをはじめられるべきです。何が助言できる事もあるかと思えます。また、かわらばんに取り上げて欲しいことも、ドンドン提案して下さい! 待ってます!

★ジュニアユース第1回説明会が行われます。

- ・11月23日(日)18:00~
- ・太白区柳生市民センター
- ・申込、詳しいお問い合わせは、大兼久まで

